

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

バブルの本質は「贈与」である 櫻川 昌哉（慶応義塾大学経済学部教授）

1. バブルとは、期待によってのみ価値が支えられるいかにも怪しげな存在である。アダム・スミス以来伝統的に、経済学が念頭に置いてきたのは、価値が同じもの同士が等価で交換させる世界である。一方、バブル資産と財の交換は、当の本人の意識はどうであれ、冷めた目で財の流れを見ると、交換ではない。財の一方的供与、つまり贈与である。
2. バブル経済の本質とは、等価交換を前提とする市場経済に不等価交換でしかない贈与が入りこんでいる世界なのである。贈与であるという点から見れば、頻発する資産バブルは言うまでもなく、政府が半ば国民に強制的に持たせる貨幣や国債もまた、バブルである。違いは、信用の根拠が市場にあるか、政府にあるかである。バブル理論の守備範囲は、資産バブルのみならず、金融政策や財政政策へと必然的に広がる。
3. 2010年以降、先進各国が危機から回復したにもかかわらず、歴史的ともいえる低金利が持続している。低金利とは麻薬である。発行コストの低さをいいことに、国債を増発する金融緩和の誘因に駆られる。しかし、問題は解決しない。冷徹に見れば、低金利は、金融機関の劣化と技術進歩の停滞で傷んだ経済の姿を映す鏡である。

(参考:「日経ビジネス」2021年11月22日号)

経営者のための理念・哲学

世界を和に導く茶道の精神性、哲学性

千 玄室（茶道裏千家前家元）

1. 国際問題に重要な役割を担っている国家が、長い間権力と持てる富で利己的な行動をとってきた。今日の世界はご承知のように、情報過多であり、多様性を重んじるがために憶測が憶測を呼び、利潤追求に走る東西南北が入り交じった様相を呈している。そのような中でも、文化的好みの共通性と相違性を知り、互いに得られるものを模索し合っている姿も垣間見られる。
2. 私が茶道をもって海外へと出た時、「日本人にも難しい茶道が外国人の人に理解できるはずがない」と言われた。だが、国境を越えて驚くべき広がりを見せた。茶道は、長い年月引き継いできた文化的伝統を伝承してきたものであり、根本にある精神性、哲学性は常に変わらぬ。そこを外国の方は敏感に感じ取り、茶道に向き合うのである。

(参考:「致知」:2022年2月号)

人事・労務について

老後を勝ち抜くためシニアには何が必要か

1. 高齢化は公的年金の支給延長とともに雇用延長も招いた。かつて55歳だった定年は60歳に延長（1986年）。高齢者雇用安定法の改正（2000年）で、雇用は65歳まで、さらに2021年4月から70歳までの雇用が努力義務になった。
2. 再雇用に当たっての心がけ（第二の人生こそ初心に帰るべし）7ヶ条
 - (1) あいさつは自分から、(2) 身だしなみには気を使う、(3) かつての部下でも「さん」と呼ぶ、(4) 自慢話は1回まで、(5) 以前の職場ルールはそのまま通じない、(6) 給料はお客様からいただく、(7) 謙虚な気持ちで仕事に取り組む（「俺は部長だった」という人だと会社は使いにくい）。

(参考:「週刊東洋経済」2021年12月11日号)

古典に学ぶ

意気地のない話

(解説) もっとも日本の文明は最近の発達で、しかも欧米諸国からの移植に負う所がすこぶる多いために、かつては欧化主義の流行に苦しみ、今もなおその余弊として、この舶来品愛重の勢いをなしておることと思われるけれども、維新以来早くも半世紀になろうとする今日、いつまで欧米心酔の夢を見ておるのであろう。実に意気地のない話である。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)